

めきをみとめらるゝのだ。やがて繪畫即人生となるのだ。

△將來の繪畫は技巧では飽たらない。態度なんだ。

△私は文人畫を好む、その鋭い印象的の筆致を好む。その省略に對する態度の優れたるのを好む。然れども獨創にあらずそれを眞似た主觀のあやふやなのを嫌ふ。

△自然をたゞ平面的に描くのは余程氣をつけないと平凡に落ち入り易い。平面の裏面に主觀のほめきが無けりや駄目だ。余はつくづく主觀の必要をみとめる。

紹介

◎東京寫眞研究會第一回品評會畫集、第一輯 人物風景を合せて藏むる處の寫眞畫十五面、澁きラシヤ紙の臺紙に美しく貼られてあつて、畫題や撮影者の名は白く印刷せられてある、頗る贅澤なもの。人物としては渡部氏の「あみもの」山崎氏の「兒童」などよく、山本氏の肖像は芝居がゝりて嫌味あり、宮内氏の畫生も畫をかく態度と見えぬ。風景では加藤氏の浮草面白く、淺野氏の「河畔の秋」、秋といふ感じは充分見えないが佳作、久野氏の牧場は極めて自然で氣に入つた。品評會中の傑作を集めたものだけあつて、流石に垢抜のした寫眞が多く、畫をかく吾々も大に教へられた處があつた。第二集第三集の續刊を待つ。(定價六十錢、日本橋本町小西本店發行)

◎中央公論 春期大附録號 本文中「犬養木堂論」は出色、黒頭

巾氏の『帝都の新聞經營者』面白し。附録の小説脚本二百頁、曰く徳田秋聲の『母』、曰く眞山青果の『枝』、曰く佐藤紅綠の『癡馬』、曰く正宗白鳥の『惡縁』、それ／＼特色があつて異つた印象が與へられる。政治に文學に、いつも新題材を提供せらるゝ編者の勞を多しとする。(本號限り四十五錢、本郷駒込西片町反省社)

◎印刷同志(創刊五週年紀念號) 印刷界唯一の雜誌にして本號には四葉の寫眞版を挿み印刷に關する諸家の説を集めたり(毎月一回定價五錢、本號限り十五錢、京都府葛野郡大内村字八條坊門印刷同志會發行)

◎實業界 甲府市より新に産れたる實業雜誌にて體裁内容殆ど實業の世界に似たり(毎月一回、定價十錢、甲府市紅梅町山梨實業社發行)

◎遊覽案内 一冊 青梅鐵道がカチャノ、式の輕便鐵道を普通鐵道に改築した紀念として發行されしもの、筒井年峰氏の實景寫眞十三葉、並びに汀鷗、九華、思案、天溪、小波、四丁等諸氏の美文紀行文を藏めたり、粧釘瀟洒、その地に遊ぶ人の好伴侶たるべし(非賣品)

日本水彩畫會新會友

和歌山縣海草郡濱東尋常高等小學校

生駒國次郎